

門脈腫瘍栓を伴う胃癌に対する治療に関する研究

1. 研究の対象

2000 年 1 月～2030 年 12 月に当院で胃がんの手術を受けられた方

2. 研究目的・方法

門脈腫瘍栓を伴う胃癌は予後不良とされており、化学療法が主体となっています。しかし、化学療法に加えて外科的介入を行うことで、予後改善の報告が散見されます。本研究では、胃癌および門脈腫瘍栓摘除について治療効果を含め検討することを目的とします。

門脈腫瘍栓を伴う胃癌の患者さんに対して、術前化学療法を行い、外科的介入を行った方に対して、カルテ、手術動画などから情報抽出を行い、予後等について検討を行います。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：病歴、抗がん剤治療の治療歴、副作用等の発生状況、カルテ番号、手術動画等

試料：なし

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

研究責任者：大阪国際がんセンター 消化器外科 大森 健

住所：〒541-8567 大阪府中央区大手前3-1-69

電話：06-6945-1181